

合唱授業におけるインターネットコンテンツの教育的効果

—富山市立蜷川小学校での実践を通じて—

深見 友紀子

(2002年9月2日受理)

Educational Effects of Internet Contents in Chorus Class

—Through the Practice at Toyama City, Ninagawa Elementary School—

Yukiko FUKAMI

Abstract

In February 2002, at Toyama City, Ninagawa Elementary School, we held a class that utilized "On-Line-Music Classroom" which was opened in April 2001. Sometimes, we can see a tendency to intend using computers itself as the goal, however, it was thought at this class that when the website is utilized, the most important goal should be to use them as tool for realizing aims of the chorus class, and children's will at the chorus class, so the direction of developing the class was planned according to those goals. As a result, it was found that computers can be fully effective as supporting tool in usual chorus classes in which the authorized textbook is used and that the class in which these contents were used can be one of the models of chorus classes at the present time, so-called broadband-age.

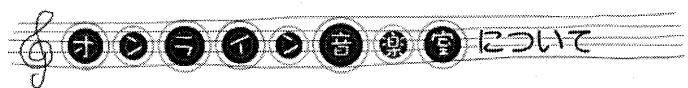
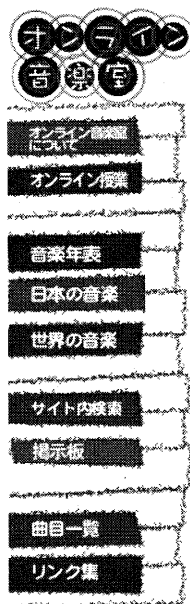
キーワード：音楽教育, デジタルコンテンツ, 情報活用, システム開発, 教員評価, 合唱指導

1. 『オンライン音楽室』とは？

『オンライン音楽室』(http://www.ongakushitsu.net/(株)ハンズオン・エンタテインメント制作)は、(株)教育芸術社発行の音楽教科書に掲載されている楽譜や文字による解説に、補充教材であるCD音源、LD映像、新しく制作した音声・動画データなどを加えて、インターネットコンテンツとしてまとめ、ウェブ上に構築した“音の出る教科書”である。「ミレニアムプロジェクト『教育の情報化』」により、平成12年度文部科学省教育コンテンツ開発事業として筆者らに企画制作、運営を委嘱されたこの音楽教育用コンテンツ配信サイトは、「オンライン音楽室について」「オンライン授業」「音楽年表」「日本の音楽」「世界の音楽」「サイト内検索」「掲示板」「曲目一覧」「リンク集」

「掲示板」「曲目一覧」「リンク集」といったメニューから構成されている。(ex.1)

本サイトは、ストリーム形式の音声・動画を配信することによって、i) 全科担任教員が音楽専科教員が行う



オンライン音楽室へようこそ。

このサイトの使用方法について、まずお読み下さい。

- [先生方へ](#)
- [児童・生徒のみなさんへ](#)
- [ご覧になるために必要な環境 \(コンピュータ・ネットワーク担当の方へ\)](#)

Copyright(c) www.ongakushitsu.net, 2001.
本サイトは、JASRACへ届出の上、後日配信開始からの著作権手続を行うことを条件に、非営利・無料で著作物の配信を行っております。(届出申請中)



JAPANESE Only / 本サイトは日本語専用です。

ex.1 『オンライン音楽室』

授業と同レベルの授業を実現できるようにすること、
 ii) 児童生徒の音楽への興味や関心を引き出し、音楽の基礎基本の習得、演奏技術の向上を効率的に支援すること、
 iii) 掲示板やリンク集を設けて、情報収集や教員間の交流を活発にすることなどを目標としている。

『オンライン音楽室』の中心的なコンテンツ「オンライン授業」は、楽譜とパート別カラオケによって、合唱や合奏などの個人、グループ練習を実現するコンテンツである。[全体をきいてつかむ][歌のレッスン][伴奏][表現の工夫][合唱にトライ][リコーダーといっしょに][和音の勉強](小学校5年生)[指導のポイント]の各項目から構成され、小学校5年、6年生用の16曲を収録している。(ex.2)

歌唱曲のフル仕様を例に挙げると、模範の歌唱に続けて歌うことで、主旋律を歌えるようにする「歌のレッスン」から、副旋律の練習を効率的に行う「合唱にトライ」まで、段階別に使用することができる。また、「だんだんともりあげて」「たいせつに歌う」などといった、教員用指導書に記載されているアドバイスを、動画を併用したり、好ましい例とそうでない例を聴き比べるといった手法により具体化した点も特徴である。

今回の合唱授業では、フル仕様の一つである「歌よありがとう」を授業の一部で使用した。

2. メーリングリストを中心とした授業準備

『オンライン音楽室』を使った授業を実施できる小学校を探していたところ、富山市立蜷川小学校が快く引き受けてくださった。しかし、蜷川小学校では高速回線が未敷設であったため、(株)教育芸術社、(株)ハンズオン・エンタテインメントの許可を得て、授業後アンインストールすることを条件に、野上治子教諭(婦中町立速星中学校音楽科教諭、教育研究科大学院1年(当時))、綿貫俊之、村田千春(ともに教育研究科大学院1年(当時))が「オンライン授業」のコンテンツをコンピュータ室のコンピュータ8台にインストールし、そのうちの3台を音楽室で使えるようにした。また、コンテンツのインストールと同時に、「オンライン授業」を閲覧するために必要なプラグイン、Real Audio Player, Quick Time Player, Shockwave Player もインストールした。



オンライン音楽室 > 授業

5年生	6年生
いつでもあの海は	つばさをください
静かにねむれ	風に向かい 光に向かい
まっかな秋	夢をのせて
冬げしき	アンデスの祭り
キリマンジャロ	コンドルは飛んで行く
気球よぼくらのゆめのせて	ふるさと
大空がむかえる朝	ラバース コンチェルト
ビリーブ	歌よありがとう

オンライン授業の使い方

監修：初山正博 先生(上北沢小学校教諭) 音源提供：日本コロムビア株式会社、教育芸術社

【Macintosh で QuickTime5 をお使いの方へ】

ex.2 「オンライン授業」

2002年2月3日 授業を円滑に進めるための諸連絡、意見交換のためのメーリングリストを開設した。登録メンバーは、富山大学側が筆者、野上治子教諭、綿貫俊之、村田千春、蜷川小学校側が授業者である荻布佐智子教諭(当時)、村橋久恵教頭(当時)、教務主任塚田みゆき教諭、同大野克子教諭、協力者笹原克彦教諭(当時)であった。

2002年2月7日(放課後)野上治子教諭がリーダーの児童らに『オンライン音楽室』の使い方を説明した。その後、荻布教諭、笹原教諭と指導展開について話し合った。

2002年2月10日 一回目の授業は、2002年2月18日第1校時に決定した。

2002年2月11日 二回目の授業(公開研究授業)は、2002年2月21日第2校時に決定した。

2002年2月12日 二回目の授業(公開研究授業)の指導案(第一案)を作成した。

この第一案に対して、i) 展開の仕方が本時のねらいと一致していない、ii) 児童の主体的な学習が目標となっているにもかかわらず、「させること」に主眼が置かれた教師主導型の指導案である、iii) 子どもたち自身が「グループ活動をする必要がある」と自覚して取り組んでこそ初めて主体的な活動といえるのではないかと、といった指摘があった。

さらに、「あれができない」「こういう経験がない」と否定的な捉え方をするのではなく、「これまでこういう力が身につけているが、さらにこういう力を伸ばしたい」「こういう経験を積むことが子どもの力を高めることになる」という考え方を指導案に反映させることになった。

また題材名についても協議されたが、このような意見交換の大部分がインターネット上で比較的短期間に行われた。

2002年2月15日（放課後） 筆者、野上治子、綿貫俊之が蟠川小学校を訪ね、河井益良夫校長らに挨拶

2002年2月16日 授業者荻布教諭が指導案（第二案）を作成

2002年2月18日 第1回の授業の実施

2002年2月20日 指導案（最終案）が完成する。（ex.5）

2002年2月21日 第2回の授業の実施 25日に第3回

目の授業を行うことが決定される。

2002年2月25日 第3回目の授業の実施

2002年2月26日～ 卒業式に向けて、朝の会などで毎日練習

3. 『オンライン音楽室』を使った合唱授業

(1) 楽曲について

花岡恵 作詞/橋本祥路 作曲 この曲は自分の心のなかに残っている大好きな歌への賛歌である。曲はA(aa') B(bb')にコーダが付いた形となっている。aの

斉唱、2番a'の対位的な旋律の重なり、Bからの二部合唱、コーダの三部合唱と、変化に富んだ響きが味わえる。

(2) 第一時の授業 2002年2月18日 第1校時 その後予備の時間をとる。

授業の流れは以下の通り。

- ・体をほぐす体操をする。
- ・「こんにちは～」と声を出す。
- ・「歌よ ありがとう」のCDを聴く。
- ・CDを鑑賞して思ったことを書く。（〈聴いて思ったこと、気づいたこと〉参照）
- ・歌詞をみんなで読む。
- ・作詞者、作曲者を確認する。
- ・拍子、小節数を確認する。
- ・曲の繰り返し記号や演奏順を確認する。
- ・教師による範唱（上パート：荻布教諭、下パート：野上教諭）～児童は範唱を聴きながら、楽譜を指で追う。
- ・児童それぞれがめあてを考えて書く。（どんな風に歌いたいのか、どんな声で歌いたいのか、どんな気持ちで歌いたいのか、など。〈学習のめあて〉参照。）
- ・『オンライン音楽室』を使ってパート練習をする。

(ex.3, ex.4)

ex.3 「歌よ ありがとう」の「歌のレッスン」(『オンライン音楽室』)

ex.4 「歌よ ありがとう」の「合唱にトライ」(『オンライン音楽室』)

〈聴いて思ったこと、気づいたこと〉

この曲を久しぶりに聞きました。やさしい気持ちで歌えたらすごくきれいになると思います。(Aさん)
3つのパートに分かれていてとても美しい歌声だった。自分たちも、この歌を歌うと思うとすごくわくわくする。(Bさん)

難しくて歌えそうにもないと思った。(Cくん)
心が気持ちよくなる感じだと思いました。きれいに合唱していて、自分たちもあんなにきれいに歌えるといいなあ。あんなにきれいに歌えるか心配だけど、はやく歌ってみたいと思いました。みんな中学校に行ったらバラバラになるけど、この歌でみんなが一つになるといいなあと思います。3パートがしっかり聞こえた。(Dさん)

ハモっている所がきれいだった。3パートそれぞれの声がよく聞こえた。明るい曲だった。(Eさん)
とてもきれいな歌声だし、きれいな響きだなあと思いました。上のパートをうまく歌えたらいいなあと思います。(Fさん)

CDを聴いて、自分たちもあんなにきれいに歌えるか、不安になりました。でも、やっぱり卒業生として頑張りたいと思いました。(Gさん)

この歌は明るいので、みんなで歌うとびったりだと思いました。(Hくん)

〈学習のめあて〉

やさしい感じで歌えば声もみんな一つになっていくはず。(Aさん)

卒業の思い出としての歌なので、気持ちを込めて合唱し、心に残る歌にしたい。自分のパートを完璧にする。(Bさん)

みんなに迷惑をかけないように頑張る。(Cくん)

みんなの心が一つになるように歌いたい。担当のパートをしっかり歌えるようにしたい。(Dさん)

他のパートの声もしっかり聞く。明るく、ありがとうという気持ちを込めて歌う。自分のパートをしっかり歌う。(Eさん)

自分のパートをきれいに響く歌声で歌いたい。(Fさん)

自分が気持ちよく歌えるように。もう卒業するんだという思いで歌いたいと思う。(Gさん)

3パートもあるので他の人につられない。明るいイメージがあるので、明るくきれいに歌う。(Hくん)

〈感想・次の時間にしたいこと〉

もっとパートで合わせて強弱なども気をつけて歌いたいです。(Aさん)

きょうは、野上先生と初めて会った。とても歌がうまくて荻布先生と一緒に歌った時はすごく美しかった。(Bさん)

案外難しかった。(Cくん)

もっときれいに大きく口を開けて歌えるようにしたい。(Dさん)

パートごとは一人一人がもっと声を出す。合唱で合わせてみる。(Eさん)

あまり声が出なかった。練習時間が少なかった。もっと練習をしたい。(Fさん)

自分が気持ちよく歌えるようにしたい。もう卒業するんだという思いでパートごとを完璧にして、合わせてみたい。きょう、時間があまりなくて残念でした。(Gさん)

しっかりと大きく明るく楽しく歌う。(Hくん)

(3) 第二時の授業

第一時の授業で、子どもたちは早く歌いたい、合わせたいと非常に意欲的になった。この授業は、テレビ・新聞(北日本放送、朝日新聞、北日本新聞、富山新聞、読売新聞、毎日新聞)の取材を受け、『オンライン音楽室』に対する一般の方々の関心の高さが窺えた。

第6学年 音楽科指導案

3組 在籍 35名
指導者 荻布 佐智子

1 題材名 明るい響きで
教材曲 「歌よ ありがとう」

2 題材について

本学級では、これまで器楽や歌唱アンサンブルを中心に表現活動を行ってきた。子どもたちは、より美しい音の重なりを目指して、練習を積んだり、工夫を加えたりしてきた。その活動を通して、仲間とともに音楽表現することの楽しさを味わった子は多い。歌唱に関しては、やわらかな声をもち、音程やリズムを正確に歌え

る子は多い。しかし、照れや緊張、変声の時期、自信のなさなどのために、なかなか響きのある声が出せないでいる。

そこで、卒業の思い出として学級全体で合唱曲をつくろうと提案したい。合唱をつくりあげることが、仲間意識を高め、不安定になりがちな気持ちの支えの一つになればと考える。そして、心一つにしたという感動体験を共有してほしい。また三部合唱は初めての挑戦である。下パートの副旋律は、音を取りにくく、合唱するとつられて歌いにくいと予想される。そこで一人一人が自信をもって歌えるように、教師や子どもたち同士の励ましや、合唱の基礎の確認、パート練習の充実を図りたい。パート練習ではインターネット上のコンテンツ『オンライン音楽室』を活用して、子どもが主体的に進められるようにしたい。

教材曲「歌よ ありがとう」は、子どもたちが憧れをもつような旋律やリズム、魅力的な和音構成の合唱曲である。しっとりとした前半と盛り上がる後半の曲想の変化はわかりやすい。また斉唱、二部合唱、さらにコーダで三部合唱へと広がっていく形式で、曲の高まりを心地よく感じながら歌えるであろう。また歌詞は、自分の心を支える歌をたたえ、仲間と共に歌うことを大切に思う内容である。子どもたちはさまざまな自分の思いを込めながら歌うことができると考える。この曲に対する思いを高めながら、一人一人にとって大切な歌になるように支援していきたい。

3 全体目標と計画 (全3時間)

全体目標 明るい響きで、曲想を生かした三部合唱をしよう。	○ 卒業前にみんなで合唱曲をつくろう。 ・歌詞の内容、曲全体の感じをつかむ ・個人、全体のめあて	・音程やリズム ・パート練習	1時間
	○ 心を合わせて三部合唱をしよう。(本時1/2時) ・明るい響きの発声 ・めあてをもったパート練習 ・曲想を生かした表現		2時間
	○ 毎日歌い、自分たちのレパトリーにしよう。(朝の会など)		課外

4 本時の学習 (2/3時)

① 本時の目標

自信をもって他パートと合わせて歌う。

② 本時の展開

具体目標	予想される子どもの追究過程と追究を深める教師の援助	評価の観点	
○ 進んで体を動かしたり、口を大きく開けたりして声を出そうとしている。	○ 発声練習をする。 ○ 前時の練習を思い出しながら「歌よ ありがとう」を歌う。 ① 今日のパート練習でのめあてを発表し合う。 ・声が小さいのでおなかに力を入れて、口を開けて歌う。 ・声を明るくするために、表情を明るく、気持ちを込めて歌う。 ・他パートと一緒に歌ってもつられないように、練習する。	・リラックスして表現できるように言葉をかける。 ・特に気をつけて練習したいところを確認し、めあてを絞れるようにする。 ・楽譜に留意点を記入することの大切さを助言し、気持ちが目標に向くようにする。	○ 進んで発声練習に取り組んでいる。(態度、表情)

<p>○ パート内で互いに聴き合い、表現に生かそうとする。</p> <p>○ 自分たちの表現を聴き、よいところや次の課題を見つける。</p>	<p>② 『オンライン音楽室』を使ってパート練習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パートに分かれるところを何回も練習しよう。 ・他パートの音と一緒に歌ってみよう。 ・パート内で互いに聴き合って練習を進めよう。 <p>③ 全員で合唱練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2部や3部に分かれるところをみんなで練習したい。つられないで歌おう。 ・パート練習で気をつけていたことを忘れないように、楽譜を見ながら歌おう。 <p>○ 合唱したものを録音して聴いてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のパートが聞こえるよ。 ・3部のところは、まだ声が小さいな。 <p>○ 今日の学習の感想をカードに書き、次時のめあてにつなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『オンライン音楽室』を活用し、歌うごとに音程、リズム、歌詞、響きなどを評価し合えるように助言する。 ・部分練習が効果的であることに気づくようにする。 ・パート練習の成果が生きるように、言葉をかける。 <p>○ それぞれのよさが感じられるように、励まし、認める。</p>	<p>○ パート内で互いに聴き合い、表現に生かそうとしている。(発言、態度)</p> <p>○ 表現のよいところや次の課題を見つける。(カード、発言)</p>
--	--	---	---

ex. 5 第二時の学習指導案（最終案）

〈感想・次の時間にしたいこと〉

パート練習では何度も歌っているとだんだんとみんな声が出てきてよかった。(Aさん)

みんなで初めて合わせてみて思ったことは、歌っていいなぁということです。きょうはすごく緊張しました。(Bさん)

なんだかうまくなったような気がした。(Cくん)

上パートと下パートでハモれるように一つ一つのパートをしっかり自信をもって歌えるように、大きく口をあけてハキハキ歌う。(Dさん)

パート練習では練習していくうちに声が大きくなって、明るく、心を込めて歌えるようになったんじゃないかな。(Eさん)

今までで一番声を出せた。つられず歌えた。今回は練習時間がたっぷりあった。少し緊張した。(Fさん)

パートごとに完璧にしたはずでも、男子の声があまり聞こえなくて残念でした。合わせたのを聴いたらすごくきれいだった。よかった。(Gさん)

テレビ局が来ていたので少し緊張したけれど、3パート合わせる時にきれいに歌えたので、今まで練習していてよかったなぁと思います。(Hくん)

(4) 第三時の授業

第二時の発展。特にコーダの三部合唱を歌えるようにする。この後、卒業式に向けて朝の会などを活用して練習を繰り返す。

〈感想・次の時間にしたいこと〉

合わせてとてもきれいだった。強弱をみんなで気をつけた。だいぶ上達した。(Aさん)

すごい。後で聞いてみて、前よりもきれいになっていると思った。ラララ・・・のところは、上が聞こえにくいので、下を小さくするか、上・中を大きくすればいいと思う。(Bさん)

声がだんだん出てきた。(Cくん)

今までで一番よかった。みんなと一緒にできたし、下パートもしっかり歌えた。(Dさん)

パート練習はなかなか声が出せなかったけれど、どんどん大きく歌えるようになった。なかなか笑顔で歌えなかったのが残念でした。下パートの声がよく聞こえた。もっと心を込める。(Eさん)

録音したテープを聞いて、下のパートがよく聞こえて上のパートがあまり聞こえなかった。前より声が出せた。(Fさん)

下パートは完璧すぎて、音量がとて大きかった。後で聞いた時、下が一番聞こえ過ぎて、上パートの音を聞くことがあまりできなかった。(Gさん)
僕は声が低いので高いのに少しついていけなかったけれど、自分なりに精一杯やれたのでよかったです。もう少し声を高くしたいです。(Hくん)

〈第一時から第三時を通じての感想〉

一番最初にパートで歌った時は、まだみんなの声が出ていなかった。心が込もっていなかったんだけど、練習していくうちにみんなの表情が豊かになって、みんなで歌うから一つの歌になるんだと思いました。野上治子先生へ 美しい歌声でした。1人で教室中を響かせられるのはすごいと思いました。(Aさん)
この歌を卒業式で歌うので、2月25日に歌った時よりももっともっと気持ちを込めて歌いたい。卒業までに美しく完璧にしてこの歌を歌ってよかったですと思えるような歌にしたい。(Bさん)
最初は声がぜんぜん出なかったけど最後は声が大きく出てよかった。(Cくん)
もう一度こういう風に歌ってみたい。歌っていて気持ちよくなったことがよかった。でも、少しふざけている人がいたので、もう一度みんなが一つになるように歌いたい。(Dさん)
みんなの心がきっと一つになると思った。ラララ・・のところの中パートが聞こえにくかったから、しっかり声をとってもっときれいな合唱をしたいです。6年3組しかできない合唱をしたいです。(Eさん)
3時間しか練習できなかったけれど、みんなきれいに歌っていた。少しの時間で、一曲を歌えると思った。(Fさん)
3時間の練習で下パートはとてきれいに歌えるようになったし、音も完璧にとれるようになったと思う。でも、上パートとのつり合いがとれず、残念でした。(Gさん)
2月21日にみんなと心を合わせて歌えたのはよかったと思います。あの時、少し歌が楽しく思いました。楽しく歌えば、心を合わせれば何でもできると思いました。(Hくん)

ことへ教師の意識変革がなされ、練習させられるのではなく、自ら三部合唱をつくりたいという気持ちが自然に湧いてくるような学習展開が工夫されていたと思う。

「オンライン授業」は決して目立つことなく、パート練習のための支援ツールとして位置づけられ、とりわけ導入段階ではコンピュータは使用せず、通常の合唱指導の導入方法が採用されていた。今回の授業では、合唱授業におけるインターネットコンテンツの教育的効果を確認するのが目的ではあったが、それに終始せず、教師や子ども同士の励ましによって、どういう風に工夫すれば気持ちを込めることができるか、表情豊かに歌えるか、各パートのバランスを図ることができるかといった課題に取り組んでいたことが高く評価できる。また、合唱授業のなかで、「自ら学び考える力の育成」「問題解決的な学習の重視」などを十分に実現していくことができることも実感できた。

また同校には高速回線が未敷設であったため、「オンライン授業」のコンテンツをインストールせざるを得なかったが、学習環境の面では、3つの広いスペースで「オンライン授業」を使ったパート練習ができるように配慮され、コンピュータを音楽室に移動したり、プロジェクターも3台準備することができた。こういった環境が普通学校で整いつつあるのは喜ばしいことである。

子どもたちもコンピュータを目新しいものであるとは思っていない。そのことは感想カードにコンピュータについて書かれていないことなどからも容易にわかる。今までコンピュータ(インターネットコンテンツ)を使った授業という、その目新しさが取り沙汰されがちであったが、今回の合唱授業での「サポート的」位置づけは、これからのコンピュータ活用の一つのモデルになるのではないかと思われる。

他方、わずか3時間の練習で「歌よ ありがとう」を最後まで通して歌えるようになったことは、「オンライン授業」を使ったパート練習の成果であるのはいうまでもない。子どもたちも自分らの進歩の速さに驚いているようであった。ただ、授業者である荻布佐智子教諭が音楽指導に長けているばかりではなく、中学校の音楽専科教員である野上治子教諭が協力者として参加したため、このコンテンツを開発する際の目標であった、このコンテンツを使えば全科担当教員が音楽専科教員が行う授業と同レベルの授業を実現できることがただちに証明されたわけではない。これは今後の課題として残された。

今回の授業においては、「オンライン授業」はパート練習のみに使用されたが、子どもたちが慣れてくれば、放課後や空き時間を利用してさらなる目的に応じて使いくなしていくであろう。その際、パート練習用以外のコンテンツも主体的に活用されるに違いない。

4. 合唱指導「歌よ ありがとう」についての考察

3回の合唱授業と課外活動を通じて、子どもたちはそれぞれが決めた学習のめあてに向かって、素直に明るく、自ら考えながら練習していた。学習に対して「必要感、をもつことは、教科にかかわらず不可欠であり、ここでは「子どもにさせる」ことから「子どもが自分でする」

5. 学習用インターネットコンテンツの今後

学校完全週休二日制の導入に伴い、平成14年度から授業内容が30%、授業時間数が20%削減された。音楽科を例にすると、平成13年度まで第2～6学年は年間70時間（第1学年は68時間）だった授業時間数が、平成14年度から、第3～4学年は60時間、第5～6学年は50時間になった（第1～2学年は不変）。こうした状況下、限られた授業時間数のなかで、音楽への興味・関心の持続、音楽的な表現への意欲の伸長、音楽表現への主体的参加、音楽的な技能の定着と向上などを実現するために、授業の効率化が求められるのは当然の成り行きである。

ところで、学校現場へのコンピュータやインターネットの導入に際しては、第一に「これまでもしてきたことが、より楽に、より完璧に、より効率的にできるようになること」、第二に「これまでできなかった新しい画期的なことができるようになること」という二つの効果があるといわれているが、コンピュータの活用は、教科書に基づく授業以外の部分で実験的に進められてきた事実が物語るように、これまでどちらかというと第二の効果を重視し、第一の効果を軽視する傾向にあったのは周知の通りである。音楽科においても同様であり、創作など特定の分野に限定した実践が多く、音楽授業の効率化のためのコンピュータ活用という発想はあまり見られなかった。

しかし今後は、削減される授業時間数を考慮して、教科書の内容を理解するためのテクノロジーの活用という側面をより一層重視してもいいのではないだろうか。コンピュータやインターネットが一般化し、実験段階を経て普及段階に入りつつある今こそ、コンピュータやインターネットなどの道具を活用することによって、それまで仕上げるまで5時間かけていた合唱指導を3時間でできるようにして、残りの2時間をさらに発展的な学習に使うような方向性が望ましいと思う。

筆者はそうした状況に鑑み、「これまでもしてきた、音楽指導・音楽学習への活用」に方向を転換をしようと考え、音楽教科書のデジタル化、『オンライン音楽室』の制作に取り組んだ。教科書に対しては批判は多々あるものの、教材の妥当性、学年レベルなどに少なくとも吟味が加えられおり、また、基本的な学習内容は急に変化するものではないということに重視することにした。

授業の大部分を占める「教科書を使ったこれまでの各教科の授業」をすべての子どもたちにとってわかりやすく、学校を少しでも楽しい場所にするためにこそ、コンピュータやインターネットはまず利用されるべきである。加えて、コンピュータをあらゆる授業で使うのではなく、授業のねらいに即して使っているか、コンピュータが有効に機能しているか、コンピュータの活用だけで活動が終わっていないか、コンピュータが授業時間の多くを教師から奪い取ってはいないか、児童の注意が授業内容か

ら逸れていないかなどを常に検証することが必要であるのはいうまでもない。『オンライン音楽室』を使った蜷川小学校の合唱授業では、授業者、協力者をはじめ、この実践にかかわる教師全員によって、これらの点に対して細心の配慮がなされていた。

おわりに

平成14年5月9日に発表された「e-Japan 重点計画-2002」によれば、平成17年度までに、概ねすべての公立小中高等学校等が高速インターネットに常時接続されるとともに、すべての教室がインターネットに接続されるという。つまり、インターネットコンテンツはこれから普及の時期を迎えるのであり、今後益々『オンライン音楽室』のような「教科教育用」「教員用」「ディスプレイ用」のコンテンツの開発、普及に向けて関係者・専門家の関心が高まるべきであると思う。

コンピュータを使わなくても良質の教育を手に入れることはできるし、コンピュータが生身の教師の励ましに取って代わることはあり得ない。そういう意味では、『オンライン音楽室』を導入しただけでは何の奇跡も起こらない。しかしながらその一方で、“音の出る音楽教科書”がすべての教室にあり、子どもたちがいつでも好きな時に音楽に親しむことができることの意義は計り知れないほど大きい。

以上のことからわかるように、音楽科教育は、授業の目標や学習のめあての達成に向かって、コンピュータと教師、コンピュータと児童、教師と児童とのよりよい関係を構築する段階を迎えているといえる。今後も『オンライン音楽室』の授業実践などを積み重ねることによって、そのよりよい関係を試行錯誤をしながら模索していきたい。